

温暖化で蛸に咬まれる話し

自治医科大学 救急医学

教授 間藤 卓

昨今、夏場の猛暑日数の増加の報道、さらに異常気象として大雨や台風などの災害の光景など、地球温暖化に関連付けられた光景をテレビで見ることは稀ではありません。しかし地球温暖化の兆候の「実感」については、個人の感覚や地域、ライフスタイルによって大きく異なるとおもわれます。さてそんな温暖化の兆候ですが、意外なところにも現れており、救命救急センターとしても影響を受けています。栃木県では夏休みには茨城県や千葉県の海に遊びに行く方も多いと思います。私も小学生の頃、水戸線にのって大洗まで海水浴に行きました。

海水浴場の浜辺では蛸を見かけることがあります。たとえば岩の隙間に見かけた10センチくらいの小さな蛸…バーベキューなどをしていたら焼蛸は美味しいですから「おっ捕まえて網で焼こう」などと思う人もいるかも知れません。しかし待って下さい！

捕まえようとして青い稲妻模様が浮き出てきたらそれはヒョウモンダコです。もともと熱帯・亜熱帯のサンゴ礁や岩礁に住んでいる蛸ですが、温暖化の影響で海水温が上昇したこともあり最近は黒潮に

乗って?どんどん北上しており、今や千葉や茨城の浜辺でまで見られる可能性があるのです。

なぜこの蛸に注意しなくてはいけないのか?

それはこのヒョウモンダコがフグと同じ毒「テトロドトキシン」を持っているからです。ヒョウモンダコというと派手な模様のタコとご記憶されている方もいらっしゃると思いますが、あれはタコが興奮したときで、普段は青紫色は呈さず模様も目立たず、ほんとにじみ一な姿なのです。さらに厄介なことにフグは食べない限り中毒になりませんが、この蛸は粘膜を含む全身に毒を持っており特に高濃度に毒腺にテトロドトキシンを蓄積しています。毒をもっているためか物怖じせずそれどころか危機を感じると自分から積極的に咬んできます。そして咬まれるとその傷口からテトロドトキシンが注入され全身に廻り、嘔気を来したり、最悪、呼吸筋が麻痺して呼吸ができなくなってしまいます。もうこうなると対応は救命救急センターの出番です。(正しく処置されれば全快します!)

ふつう蛸に咬まれて命の危険があると思ってもみないですから、その分危険は増します。

「風が吹けば桶屋が儲かる」ではありませんが、まさかこのような形で温暖化が巡り巡って皆様の生活に危険を及ぼすとは普通は想像しがたいことかもしれません。しかしながら温暖化に伴う生物相や

分布の変化は、皆様が思うより生活の安全と健康に大きな影響を及ぼしているのです。

「知っていて損は無い」「正しい知識が命を守る」…その一端として「温暖化に伴う危険生物の変化」について少し詳しく掘り下げたいと思います。

《講 師 略 歴》

氏 名 間藤 卓（まとう たかし）

《学歴及び職歴》

1987 年 新潟大学医学部 卒業

東京大学医学部付属病院内科研修医、リウマチ・アレルギー内科入局、救急部助手、

埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター准教授を経て

2016 年から自治医科大学救急医学講座教授、救命救急センター長

救急医療・集中治療に携わるかたわら、ココア、ラムネ、ビフィズス菌、医療機器、最近ではかんぴょうの研究に従事

《代表的著作》

ココアはカラダとココロを温める 賢者の飲み物 12 の秘密(2019 年へるす出版)